

2024年1月7日（日）／説教者：神谷武宏

説教：「誠実に、ひたむきに」

聖書：マルコによる福音書2：1～12

この物語に他のタイトルを付けるとしたら「友情物語」としたい。「四人の男が中風の人を運んで来た。しかし、群衆に阻まれて、イエスのもとに連れて行くことができなかった」（マルコ 2:3-4）。イエスに癒してもらいたい、ただその一心でイエスのおられる家の屋根をはがす。そこまで中々できることではない。そこに彼らの友情を見る。イエスはこの状況を見て、「罪の赦し」の宣言をする。

何故、「罪の赦し」の宣言か？ 当時、病は罪の表れとして見ていた。ただでさえ病や障がい、苦しんでいる者に“お前は罪人だ”とレッテルを貼った。そのような律法の解釈がまかり通っていた。イエスはそのことに対して激しく立ち向かう。「罪の赦し」の宣言は、「あなたの病は決して罪によるものではない、病があっても罪赦されている者として堂々と生きていい」という意味を含んでいる。そのことは何も聖書の世界だけの話ではない。今の社会でも良く聞く話。

イエスは本来なら、「罪の赦し」の宣言で終わろうとしていた。しかしこの後に次の展開を見せる。イエスは律法学者の心を見抜き「人の子が地上で罪を赦す権威を持っていることを知らせよう」（10節）と癒しの業に移る。ここでの病の癒しは、あくまで「罪の赦し」の宣言を強調するため、あなたの罪は赦されている、決してあなたの病は罪によるものではないとの強調である。

もう一つ。「イエスはその人たちの信仰を見て」、罪の赦しの宣言をする。イエスにとって罪の赦しとは何を意味しているのか？ 他人の信仰によって罪が赦されるということなのか？ 「信仰」とは、原語で「ピステイス」というギリシア語が使われているが、その意味は「信仰」以外に「誠実さ」、「ひたむきさ」がある。

ある牧師（深津文雄）の著書に、「イエスは、4本のロープで吊り下ろされた一人の老人を見たときに、そこに回復されている人間関係の美しさを見たのです。『彼らの信仰を見て』とありますが、その『信仰』とは、5人の男から神に向ける信仰とか、イエスに対する信仰とか言う前に、5人の男の間に回復された『信頼』のことだったのでないかと思います。」と記されていた。

「友を助けたい」という「誠実さ」「ひたむきさ」に対し、その美しい人間関係、本来人間が持つべきその人間関係の美しさこそ、罪の赦しに他ならないんだよ」とイエスは言われたのではないか。

そのような聖書の読み方もまた、私たちの信仰を豊かにしてくださるのかと思う。私たちはこの2024年という新たな主の年を、私たちが置かれた中において「誠実に、ひたむきに」歩むことができると願う。（神谷）